

## 事例研究（資本市場と公共政策）

1. テーマ 「金融危機後のグローバル資本市場の展望と課題」（詳細別紙）
2. 進め方 担当教員による講義、ゲストスピーカーによる講義、学生による報告  
(別紙日程参照)
3. 学生報告 日程上、下線付き斜字体の回（⑦⑨⑪⑫⑬）は学生報告を予定。  
各サブテーマの報告担当学生は、関連する講義内容を参考にしつつ、指定された参考資料、その他の資料をもとに、分担して、それぞれのテーマについての報告を行う。（各回の参考資料、報告事項については、別紙資料にあるほか、担当学生に個別に指示する）  
報告を希望する学生は、10月14日までに、①氏名、②所属、③学生番号、④希望サブテーマ（第1から第4まで）を記入し、「【事例研究報告選択希望】」と標題をつけたメールで、[amaya@pp.u-tokyo.ac.jp](mailto:amaya@pp.u-tokyo.ac.jp)宛に登録すること。（希望者が多数の場合は先に登録した者を優先する）
4. 成績 平常点及びレポートによって評価する。  
【報告を行う学生】  
担当報告（質疑応答対応を含む） 及び  
他の授業への出席、参加・貢献度 により評価する。  
(期末レポートは不要)  
【報告を行わない学生】  
授業への出席、参加・貢献度 及び 期末レポートにより評価する。  
上位成績は、報告を行う学生に優先して付与する。
5. 授業資料 2回目（10月12日）の資料は、CFIVEに掲載するとともに当日配付する。  
3回目（10月19日）以降の資料は、CFIVEにより配付する。  
履修生は、教育要計算機システムのアカウントを取得し、CFIVEの本コースの学生登録を行うこと。
6. 参考書 第1,2回授業における参照資料、及び、各サブテーマの「参考資料」を参照。  
なお、本授業は、「金融」「ファイナンス」等の科目の既習を条件とせず、適宜補足説明を行うが、金融に馴染みのない学生は、基本的には金融の教科書、用語集等で知識を補充することが望ましい。

( 日 程 )

事例研究 (資本市場と公共政策) 「金融危機後のグローバル資本市場の展望と課題」

- ① 10月 5日 オリエンテーション (天谷)
- ② 10月12日 金融リスクにかかる基礎知識 (天谷)
- ③ 10月19日 ゲストスピーカー (リスク管理関連)
- ④ 10月26日 ゲストスピーカー (OTC デリバティブ関連)
- ⑤ 11月 2日 ゲストスピーカー (取引所取引関連)
- ⑥ 11月 9日 ゲストスピーカー (国際的な破綻処理関連)
- ⑦ 11月16日 証券化商品 および 格付機関 をめぐる課題と対応
- ⑧ 11月30日 ゲストスピーカー (国際会計基準関連)
- ⑨ 12月 7日 店頭デリバティブ取引 をめぐる課題と対応
- ⑩ 12月14日 金融システムにかかる基礎知識 (天谷)
- ⑪ 12月21日 システム上重要な金融機関 をめぐる課題と対応
- ⑫ 1月11日 金融危機前 (2004-2006) の規制当局の対応
- ⑬ 1月18日 規制対応の遅れの背景、ラップアップ

## (テーマ)

### 「金融危機後のグローバル資本市場の展望と課題」

2007年の米国サブプライム危機に端を発した金融危機によって、世界の金融・資本市場は大きく混乱したのみならず、各国の経済も深刻な悪影響を受け、今なお立ち直っていない。

このような深い傷を与える世界金融危機はなぜ起きたのか、その反省をもとに、今後の金融の在り方について、国際的に活発な議論が行われており、新たな規制の導入など一定の結論に至ったものもある。

本授業では、

- 金融危機の要因となる歪みの蓄積を生んだ証券化モデル
- 金融危機を瞬く間に全世界に伝播させる原因となった店頭デリバティブ取引
- その破綻が世界の金融システムに重大な影響を与える金融機関
- 金融危機未然防止のための対応の遅れ

の4つの切り口から、何が問題なのか、どのような対応が検討されているのか、残された課題は何かを考える。

「〇〇について問題があったので、～という対応をとる」というとき、これを本当に理解するためには、まず、問題の背景と本質、すなわち「そもそも〇〇とはどういうものか、従来どのように機能していたのか（あるいはいなかったのか）」「今回の問題の要因はどこにあるのか、なぜその問題が今顕在化したのか」といったことを、十分把握した上で、対応がどのような意義を持つのか考える必要がある。

そこで、今回の授業では、実務に通じたゲストスピーカーの説明と担当教員の説明を織り交ぜて、問題の背景と本質の理解を図った上で、現在検討されている対応や課題について学生報告をもとに議論することを基本とする。

このような授業を通じ、履修生が、現在のグローバルな金融・資本市場の抱える課題について理解を深めるとともに、問題の背景と本質を把握しつつ解決策を検討する思考パターンを身につけることを狙いとする。